

*** 1966年～1998年の65cm観測野帳収蔵**

図書室から65cm屈折望遠鏡の観測野帳があると、アーカイブ室に届けられた。アーカイブ室新聞に明治の頃の観測野帳を収蔵した記事を書いているので、その類ということであろう。65cm望遠鏡はこの観測野帳の観測を最後に終了している。この観測野帳は昭和41年(1966年)～平成10年(1998年)の間、畑中至純氏(始めた頃は天体掃索部、その後、計算施設所属)と一部は佐藤英男氏一緒の観測野帳である。この観測野帳は全部で26号に及び、附録が1冊ついている(表1)。附録は、さそり座に発見されたX線星の変光をインドで観測した記録であり、65cm望遠鏡ではなく、筆者が変光星の観測に使っていた卯西儀と呼ばれた30cm反射望遠鏡によるものである。

65cm望遠鏡	観測野帳					
	主な観測対象	観測始	観測終	乾板番号始	乾板番号終	乾板数
0号	土星の衛星	19661110	19670201	1	28	28
1号	土星の衛星	19670721	19671220	29	158	130
2号	土星の衛星	19671221	19681026	159	241	83
3号	土星の衛星	19681027	19690105	242	298	57
4号	土星の衛星	19690106	19700118	299	369	71
5号	土星の衛星	19700120	19710115	370	441	72
6号	土星の衛星	19710116	19720108	442	492	51
6号補	土星の衛星	19701121	19711126	乾板の通し番号なし		佐藤英男氏の観測野帳
7号-A, C	土星の衛星	19720112	19731124	493	573	81 欠509-553、この号から畑中、佐藤連名
7号B	土星の衛星	19721014	19730327	509	553(45)	19721014～19730208これ以降は畑中さんのノート
8号	土星の衛星	19731126	19740125	574	605	52
9号	土星の衛星	19740127	19750123	606	645	40
10号	土星の衛星	19750201	19761210	646	708	63
11号	土星の衛星	19761214	19780111	709	795	87 これ以降畑中氏のみになっている
12号	土星の衛星	19780115	19790505	796	900	105
13号	土星の衛星	19790506	19800501	901	972	72
14号	土星の衛星	19800502	19810313	973	1026	54
15号	土星の衛星	19810316	19820426	1027	1096	70 ここまでは天体掃索部
16	土星の衛星	19820501	19841130	1097	1173	77 木星のスケッチ、計算施設所属になっている
17	土星の衛星	19850517	19851211	1174	1280	107 土星の衛星、ハレー彗星、 μ Dra、月、木星のスケッチ
18	土星の衛星	19851212	19860527	1281	1379	99 ハレー彗星、土星の衛星
19	土星の衛星	19860508	19870616	1380	1449	70 火星、木星、月のスケッチ
20	土星の衛星	19870618	19890721	1450	1526	77
21号	土星の衛星	19890723	19900924	1527	1610	84
22号	土星の衛星	19901002	19920825	1611	1672	62 土星の大白斑
23号	土星の衛星	19920828	19931104	1673	1715	43 月のスケッチ、スフィート・タット彗星
24号	土星の衛星	19931109	19940906	1716	1730	15 シューメーカー・レビー彗星の衝突
25号	土星の衛星	19940909	19970109	1730	1764	34
26号	土星の衛星	19970111	19980219	1765	1790	26 完
65cm観測野帳 附録		197104	197105	インド・ハイデラバッド ニザミア天文台		

表 1

この観測野帳は、65cm望遠鏡の観測野帳というよりは、畑中至純氏のプロジェクトの観測野帳という方が適当なのだと思うが、65cm望遠鏡の歴史的な観測野帳として収蔵しておくことにする。例えば国立天文台岡山天体物理観測所の188cm望遠鏡の観測野帳は、その望遠鏡の使用者は全国の天文学者であり、その望遠鏡の正式な観測記録である。観測者が論文を書くためにはその観測野帳のコピーを持ち帰るなり、自分の観測野帳を別にメモを加えて書いていたと思う。この畑中・佐藤氏以外の65cm望遠鏡の観測野帳はまだ入手して

いないが、東京天文台の主力観測装置の望遠鏡の一つであった 65cm 望遠鏡には、それなりの観測野帳が存在しているはずである。

畑中氏は、この観測野帳が示すように土星の衛星の軌道改良に精力を注いだ人である。このプロジェクトを進めている間に、ハレー彗星、スフィフト・タット彗星、シューメーカー・レビー彗星の出現の観測があり、また、木星のスケッチ観測があり、土星に大白斑が現れた観測がある。歴史的な記録になっている。

写真 1、2 は土星の大白斑のスケッチである。

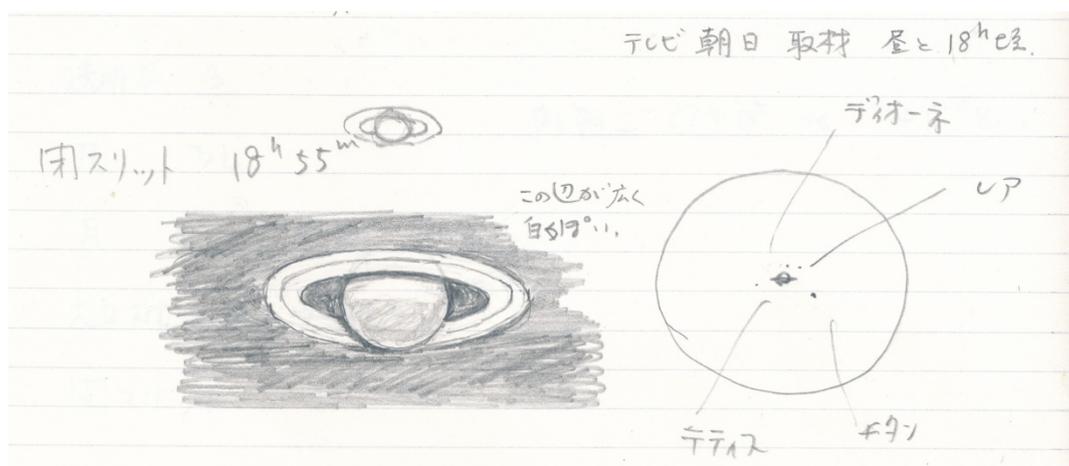


写真 1 土星の大白斑のスケッチ - 1

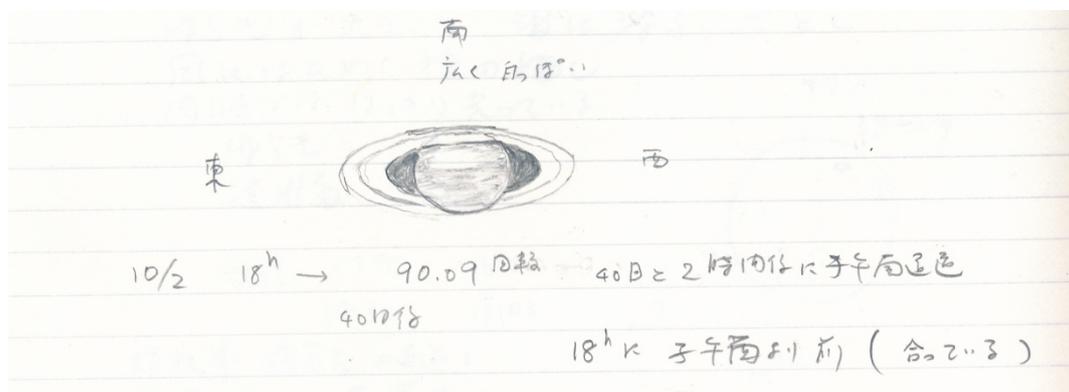


写真 2 土星の大白斑のスケッチ - 2

畑中氏の観測は、1998年2月に終わっている。氏は1998年3月で定年退職したはずであるから、まさに天文台での人生は土星の衛星の観測であったのであろう。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp